

## 教育研究業績概要

<b>氏 名</b> 上原俊介 ( )		
<b>研究分野</b>	<b>所属学会等の名称</b>	
社会心理学	日本心理学会、日本社会心理学会、日本犯罪心理学会、日本感情心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、International Association for Relationship Research、東北心理学会	
<b>担当授業科目名</b>		
心理学概論、社会・集団・家族心理学Ⅰ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、感情・人格心理学Ⅰ、心理学実験、臨床心理演習Ⅲ・Ⅳ、医療人底力実践(基礎Ⅰ・Ⅱ)		
<b>教育上の能力に関する事項</b>		
<b>事 項</b>	<b>年</b>	<b>概 要</b>
1 教育の実践例、教育に関する評価等 1) 課外授業による初年次教育	2015年	東北大学文学部の初年次教育において、「人を裁くところ:道徳的感情の探求」と題し、宮城県警察科学捜査研究所の見学および仙台地方裁判所の傍聴を企画・実施した。
2) ゼミナールの対抗討論会	2016年-現在	鈴鹿医療科学大学と近畿大学のゼミ対抗討論を毎年実施している。
3) 学外研修	2019年-現在	ゼミナールの一環として、三重県警察本部科学捜査研究所へ見学に行き、司法現場において心理が果たす役割を学習している。
2 作成した教科書、教材、指導書等 1) 『Psychology of anger: New research』	2014年	同書は怒りの感情研究の専門家向けの国際的教科書として作成され、販売されている。
2) 『紛争・暴力・公正の心理学』	2016年	同書は葛藤・紛争研究を学ぶ初学者向けの教科書として作成され、販売されている。
3) 『グループにおけるダイナミズム:集団での意思決定1』	2016年	同書は慶應義塾大学ビジネス・スクール課程向けの教科書として作成され、販売されている。
4) 『Advances in psychology research: Volume 126』	2017年	同書は心理学の専門家向けの国際的概論書として作成され、販売されている。
5) 『絶対役立つ社会心理学:日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す』	2018年	同書は社会心理学を学ぶ初学者向けの教科書として作成され、販売されている。
6) 『ここを科学する:心理学と統計学のコラボレーション』	2019年	同書は心理統計学を学ぶ初学者および一般人向けの統計教科書として作成され、販売されている。
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等 1) 国立大学法人東北大学科研費取得研修会	2015年	東北大学大学院文学研究科内において、競争的資金の獲得に向けた研修会の講師を務めた。
2) 鈴鹿医療科学大学第3回教育研究会	2017年	鈴鹿医療科学大学の教育改善提案として、「学生のグループ学習とピアサポートシステムの構築」という演題で講演を行った。
3) 鈴鹿医療科学大学第4回教育研究会	2018年	鈴鹿医療科学大学の教育改革・改善案として、「医療系大学における学力向上の要因と効果:心理学的モデルの提案」という演題で講演を行った。
<b>職務上の実績(学術団体や社会等における活動)に関する事項</b>		
<b>事 項</b>	<b>年</b>	<b>概 要</b>
1 資格、免許、特許、受賞等 1) 日本心理学会第77回大会学術大会優秀発表賞授賞	2013年	日本心理学会第77回大会学術大会において、研究発表が優秀であったため表彰を受けた。

2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等		
1) 日本感情心理学会第21回大会実行委員会	2013年	大会実行委員として活動した。
2) 日本顔学会第18回大会実行委員会	2013年	大会実行委員として活動した。
3) 日本認定心理士会北海道・東北支部事務局	2013年	事務局員として活動した。
4) 日本認知心理学会第12回大会準備委員会	2013年	大会運営委員長として活動した。
5) International Journal of Psychology & Behavior Analysis 編集委員	2014年-現在	同学会の機関誌において編集委員として活動している。
6) 日本犯罪心理学会第53回大会準備委員会	2015年	大会準備委員として活動した。
7) 伊賀市いじめ問題専門委員会委員	2016年-現在	同委員会の委員として活動している。

**研究業績等に関する事項**

著書名, 報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				
1) When does moral outrage arise? Two possibilities	共	2014年1月	<i>Psychology of anger: New research.</i> New York: Nova Science Publishers	上原俊介・中川知宏 pp. 27-47
2) 報復の心理:その機能と功罪	単	2016年2月	紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房	上原俊介 pp. 13-23
3) グループにおけるダイナミズム:集団での意思決定1	共	2016年3月	KBS ケース教材 慶應義塾大学ビジネス・スクール	林洋一郎・上原俊介・鳥取部真己
4) Positivity of anger in relationships	単	2017年3月	<i>Advances in psychology research: Volume 126.</i> New York: Nova Science Publishers	上原俊介 pp. 31-43
5) 対人行動:勘定的になるとき、感情的になるとき	単	2018年10月	絶対役立つ社会心理学:日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す ミネルヴァ書房	上原俊介 pp. 57-88
6) 男と女の人間関係:男女の心はどう違うのか	単	2019年3月	こころを科学する:心理学と統計学のコラボレーション 共立出版	上原俊介 pp. 63-95
(報告書等)				
該当なし				

学術論文 学会発表等の題名	発表者名	発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
(学術論文)  1) 対人関係における怒りの経験:Averill の質問紙による調査  2) 学生の QOL に影響する要因の検討:社会的行動制御スタイル・感情を中心に  3) Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives  4) The role of social anxiety in anger against norm violation  5) 関係規範の違反に対する怒り感情:人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響  6) 怒りの動機を規定する人格要因:共有的志向性の影響  7) Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?  8) 関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情:知覚された欲求責任違反の媒介的役割  9) When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs  10) 怒りの社会心理学的研究:規範違反の知覚と怒り感情に対する人間関係タイプの影響	上原俊介  小宮山みなみ・阿部恒之・ <u>上原俊介</u> ・菊地史倫  <u>上原俊介</u> ・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一  <u>上原俊介</u> ・中川知宏・小松さくら・大淵憲一  <u>上原俊介</u> ・船木真悟・大淵憲一  <u>上原俊介</u> ・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一  <u>上原俊介</u> ・中川知宏・森 丈弓・清水かな子・大淵憲一  <u>上原俊介</u> ・中川知宏・森 丈弓・大淵憲一  上原俊介	人間科学論究 第 12 巻 pp. 187-199 2004 年  早稲田大学臨床心理学研究 第 8 巻 1 号 pp. 53-66 2009 年  Tohoku Psychologica Folia Vol. 68 pp. 38-48 2009 年  Tohoku Psychologica Folia Vol. 69 pp. 40-52 2010 年  実験社会心理学研究 第 51 巻 1 号 pp. 32-42 2011 年  文 化 第 75 巻 1/ 2 号 pp. 40-55 2011 年  Tohoku Psychologica Folia Vol. 70 pp. 10-20 2011 年  社会心理学研究 第 27 巻 3 号 pp. 161-173 2012 年  Japanese Psychological Research Vol. 54, No. 2 pp. 137-149 2012 年  東北大学大学院文学研究科博士論文 <b>【博士(文学)第 418 号】</b> 2012 年

<p>11) Anger in close relationships: Relationships, perceived violation of responsibility for needs, and feelings of anger</p> <p>12) 道徳的違反に対する怒り感情:義憤を規定する状況要因の検討</p> <p>13) 怒りと道徳的違反の知覚:危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響</p> <p>14) What leads to evocation of moral outrage? Exploring the role of personal morality</p> <p>15) 怒りの利己性:公正敏感さは怒りの道徳感を誘起するか</p> <p>16) 義憤か私憤か:金銭実体性による調整効果の検討</p> <p>17) 診療放射線技師臨床実習におけるパフォーマンス評価の懸念を取り入れた成績評価表の開発</p> <p>18) The positivity of anger: Non-expression of anger causes deterioration in relationships</p> <p>19) 親密な関係における怒りの感情表出と効果:生存時間分析による検討</p>	<p><u>上原俊介</u>・中川知宏・田村達・森 丈弓</p> <p><u>上原俊介</u>・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里・田村 達・森 丈弓</p> <p><u>上原俊介</u>・中川知宏・田村達・小形佳祐・齊藤五大</p> <p><u>上原俊介</u>・中川知宏・田村 達</p> <p><u>上原俊介</u>・中川知宏・田村 達</p> <p><u>上原俊介</u>・手島啓文・田村達・中川知宏</p> <p>武藤裕衣・<u>上原俊介</u></p> <p><u>上原俊介</u>・田村 達・中川知宏</p> <p><u>上原俊介</u>・森 丈弓・中川知宏</p>	<p>Tohoku Psychologica Folia Vol. 71 pp. 33-41 2012 年</p> <p>社会心理学研究 第 28 卷 3 号 pp. 158-168 2013 年</p> <p>文 化 第 77 卷 1/ 2 号 pp. 1-12 2013 年</p> <p>International Journal of Psychological Studies Vol. 6, No. 1 pp. 58-67 2014年</p> <p>実験社会心理学研究 第 54 卷 2 号 pp. 89-100 2015 年</p> <p>文 化 第 79 卷 1/ 2 号 pp. 62-72 2015 年</p> <p>日本放射線技師教育学会論文誌 第 9 卷 1 号 pp. 10-16 2017 年</p> <p>Psychology Vol. 9, No. 6 pp. 1444-1452 2018 年</p> <p>実験社会心理学研究 印刷中</p>
<p>(学会発表等) 過去 4 年間</p> <p>1) The positivity of anger: Not expressing anger causes deterioration in relationships</p>	<p><u>上原俊介</u>・田村 達・中川知宏</p>	<p>The 31th Annual International Congress of Psychology 2016 年</p>

2) 人間関係の親密さと怒りの感情表出:ペア・データによる分析	<u>上原俊介</u> ・中川知宏	日本社会心理学会第 57 回大会発表論文集 p. 237 2016 年
3) 階層帰属意識に対する選択肢レイアウトの影響:擬似的無視かヒューリスティックスか?	木村邦博・ <u>上原俊介</u>	日本行動計量学会第 45 回大会発表論文抄録集 pp. 48-51 2017 年
4) 人間関係の親密さと怒りの感情表出	<u>上原俊介</u> ・中川知宏・太幡直也・鈴木亮子	日本心理学会第 81 回大会発表論文集 p. 207 2017 年
5) 質問紙の回答行動に対する自己概念と文脈の効果:認知的過程モデルにもとづく検証	木村邦博・ <u>上原俊介</u>	日本社会心理学会第 58 回大会発表論文集 p. 105 2017 年
6) 質問紙への回答における文脈効果のメカニズム:プライミングの影響の抑制による印象操作検出の試み	木村邦博・ <u>上原俊介</u>	日本社会心理学会第 59 回大会発表論文集 p. 264 2018 年
7) 選択肢レイアウトはいかに回答に影響するか:階層帰属意識の測定における言語および数値ラベルの効果	木村邦博・ <u>上原俊介</u>	日本行動計量学会第 46 回大会発表論文抄録集 pp. 356-359 2018 年
8) 親密な関係における怒りの感情表出:その関係維持効果をめぐる検討	上原俊介	日本心理学会第 82 回大会公募シンポジウム「Negativity について再考する:社会生活における Negativity」 2018 年
9) 母親のネガティブな養育態度と子への効果:回想法による検討	上原俊介	日本犯罪心理学会第 57 回大会発表論文集 2019 年
10) 親密な人間関係における怒りの感情表出と効果	上原俊介	日本心理学会第 83 回大会公募シンポジウム「社会生活における Negativity のポジティブサイド」 2019 年
11) 謝罪における誠意:謝罪受容に対するお詫び品の重量効果	<u>上原俊介</u> ・鈴木美祐	日本社会心理学会第 60 回大会発表論文集 2019 年
(他 37 件)		

<p>(その他)</p> <p>1) 嘘と欺瞞の心理学: 対人関係から犯罪捜査まで 虚偽検出に関する真実 第2版 (翻訳分担: 第2章 嘘をつくということ: 自分中心の言動と社会的潤滑油) (Vrij, A. (2008). Detecting lies and deceit: Pitfalls and opportunities: Second edition. Chichester, England: John Wiley &amp; Sons.)</p>	<p>上原俊介</p>	<p>福村出版 pp. 15-47 2016年</p>
--	-------------	-------------------------------------